

第8回吉川地域における施設一体型小中一貫校設置に係る地域協議会 議事録（要旨）

日 時： 令和7年8月4日(月) 午後7時～午後8時40分

場 所： 吉川町公民館 研修室

出席者： 岩崎 正勝 令和5年度吉川地区区長協議会長

石田 正治 吉川地区区長協議会

福本 和也 吉川地区区長協議会

森下 顕 吉川町まちづくり協議会

谷郷 祐次 吉川町まちづくり協議会

白木 拓真 吉川町まちづくり協議会

山田 知美 よかわ認定こども園・いずみ認定こども園

黒田 えりか よかわ認定こども園・いずみ認定こども園

青島 静香 よかわ認定こども園・いずみ認定こども園

中上 智貴 よかわ認定こども園・いずみ認定こども園

阪本 俊治 吉川小学校 PTA

山田 一貴 吉川小学校 PTA

福田 亮 吉川中学校 PTA

藤本 理恵 吉川中学校 PTA

杉原 千二三 吉川小・中学校学校運営協議会

富田 佳泰 吉川小学校 校長

河原 正則 吉川中学校 校長

(事務局)

大北由実教育長

森田真規教育総務部長、山口正明教育振興部長

武内克朗学校教育課長、仲谷淳小中一貫教育推進室長

本岡伸朗小中一貫教育推進室主査、林和己小中一貫教育推進室主査

傍聴人の数：2名

(会長)

ただいまから第8回の吉川地域における施設一体型小中学校設置に係る地域協議会を開会する。

1年以上協議し今日が最後となる。先日、市教委が地域説明会をしたその結果報告等を踏まえて、この協議会は一区切りつけたいと思う。それでは事務局から報告をお願いします。

<事務局報告>

(会長)

では先ほどの地域説明会の開催結果についてご意見ををお願いします。

(委員)

小中一貫校になった場合、小学生も中学生もスクールバスでの通学になるのか。

(事務局)

スクールバスについては、今後の開校準備委員会の中で協議する。

(委員)

小学校統合時は時間がなく、多くの意見が反映されなかったと感じたが、今回は約4年の期間があるため、多くの意見をしっかり聴いて頂きたい。小学校と認定こども園の距離が離れることで、アフタースクールと認定こども園両方に子どもを預けている場合、その送迎に時間がかかってしまうことへの不安があるという意見もある。また、全学年1学級の想定であるが、35人ギリギリの年代もあったため、教室数は要検討だと考える。それから、開校準備委員会の教育課程部会について、教職員中心で進める想定だが、今回、地域との交流が重要としているので、この教育課程部会にどのような形で地域の意見を反映させるのかは検討していただきたい。

(事務局)

開校準備会等では、約4年の期間においてできるだけ丁寧にご意見をお聴きし、説明に努めていきたいと考えている。認定こども園とは物理的に離れてしまうため、不便さが出てしまうと思うが、他地域の状況も踏まえて三木市として全体的に捉えて検討していきたい。教室数については、おっしゃるような35人ギリギリの年代もあるため、想定人数をしっかりと確認しながら考えていく。教育課程部会については、教職員で決めなければならない部分もあれば、地域の意見を聞かないといけない部分もあると思うので、教育課程部会という形にこだわらず、地域の意見聴取の方法について検討していきたい。

(委員)

市民ワークショップを基本計画に反映していくと言われていたが、令和7年度から始めるのか。

(事務局)

早ければ令和7年度中にできると考えている。

(会長)

建設工事が2か年となっているが、造成なしの計画で進めていくのか。

(事務局)

造成はしない想定でいる。

(会長)

予算と事業費は別だと思う。想定する事業費に対して、財政と協議して予算がってくるので、やはり目安となる事業費は、億円単位でもいいのである程度積算して、早めに把握しておくべきなのかなと思う。

(委員)

開校準備委員会の施設整備部会に、設計事業者等と呼ぶ可能性はあるのか。

(事務局)

施設整備部会は、基本計画、基本設計、実施設計の方針検討と進捗管理をしていくため、設計事業者等にも来ていただいて話をする想定である。

(会長)

施設整備部会において、委員の意見は反映できるのか。

(事務局)

もちろん委員の意見が反映できるように運営していく。施設整備部会だけではなく、学校運営部会、教育課程部会とも連携して基本計画、設計に反映していきたいと考えている。

(委員)

開校準備委員会が早ければ令和7年度発足という話だが、施設に関する意見も多い中で8年度の基本計画策定までに意見をまとめられるのか。

(事務局)

基本計画で決めるのはだいたいの校舎の配置や、部屋数等のざっくりとした内容であり、具体的な検討はその次の基本設計になってきますので、施設に関する意見をまとめる時間はあると考えている。

(会長)

これまで8回にわたって協議してきが、その協議の内容はしっかり踏まえてプロポーザルに臨んでいただきたい。

(事務局)

プロポーザルの仕様書には、今回策定する基本構想を踏まえる条件を考えている。

(会長)

できるだけ反映してもらえるような形で次に引き継いで進めていただきたいというのが、全員の願いだと思う。

(委員)

説明会の中で、子どもたちや保護者の意見を聞きながら進めていくと言っていたが、今後どのように、意見を聞いていくのか。

(事務局)

意見の聴取については、低学年の子どもからはなかなか意見が出にくいというところ

ろもあるため、方法は今後検討していく。

(委員)

今回の説明会でどれほど周知できたのかは分からないが、統合のときのように、廃校が迫ってからいろんな意見が出だすというような状況はつくりたくないと思うので、早めに意見を聞いた方がいいと思う。

また、今後の開校準備委員会では、多くの方が入れ替わって参加できるシステムにするとか、参観日とセットで説明会を開催する等、検討をお願いしたい

(事務局)

検討する。

(会長)

子ども達に、新しい学校をテーマにした作文を書いてもらうのもいいかもしれない。

(委員)

全て更地にして使うのか。それから敷地が結構高低差で段差があると思うが、敷地の一部利用なのか全部利用なのか。

(事務局)

吉川高校の敷地の使い方については、今から検討になる。当然、体育館等は段差があるので、それらも考えながら検討する。

(会長)

これまで協議会の中で「使えるのにわざわざ潰す必要はないが、使われないものを無理して使うようなことはやめてほしい」と言ってきた。特に教室については、やっぱり最新の設備等、一番教育環境が良くなるような形で整備をしてほしいというのが、この会の意見である。

(委員)

特認校については三木市内でアンケートを実施したか。

(事務局)

特認校に関するアンケートは取っていない。

(会長)

いろんな意見を十分に聞いて、計画を進めていっていただきたい。ではこれで質疑応答は終了するので、各委員から一言ずつお願いしたい。

(委員)

いろんな意見を聞くという中で、子どもの作文のテーマは、「これからの吉川町の

未来」や、「小中一貫校になることに対する自分たちの思い」というのがいいのではないかと思う。また、教育委員会の職員がPTAの総会等に積極的に出向いて意見を聞くべきだと思う。それから特認校については、今想定は10名程度とあったが、そう簡単には来ないと思う。それで今市長が力を入れておられますゴルフであれば、小学生や中学生なら始めることができるので、ゴルフで生徒集めというものは不可能ではないと思う。

さいごに、山村留学というものがあるが、都会の子どもたちを吉川町に受け入れるような寮をつくるというものも検討してはどうかと思う。

(委員)

私の子どもは今小学校6年生と4年生だが、ちょうど小学校の統廃合の波の中にあった。それを踏まえて、今回の事業は懇切丁寧に進めていていただきたいと思う。

(委員)

公立校は指導要領にかなり縛られすぎていると言われている。私学との違いは多分その辺じゃないかと思うが、そうするとなかなか特色あることもできないとなる。そこでやはりもっと民間の力をどんどん学校に取り入れてもいいのかなと思う。学校内で民間の事業者を入れるのは難しいという話も出てくると思うが、あれもできない、これもできないという縛りばかりかけると特徴が全然出せなくなると思うので、どこまで融通の利いた学校づくりができるかというところが今後の課題かと思う。あまり頭固くならず、子どもたちのためというところをメインに考えて、これから学校づくりを進めていただきたいと思う。

(委員)

今まで8回協議会を重ねてきて、決まったこと、できなかったと思うことはいろいろある。今後も難しいことがあるかもしれないが、できるだけ関係各者で頑張って進めていけたらと思う。

(委員)

結局小中一貫校になって生活するのは子どもなので、子どもが楽しく快適に生活できる学校が魅力だと思う。それを親から伝えるのは難しいところであるので、学校の先生方から学校の中で子ども達に説明していただけると、子ども達も小中一貫校に対する意見が言いやすいのではないかと思う。そういうところを取り入れて、今後進めていていただきたいと思う。

(委員)

小学校4校が統合してからまだ3年しか経ってないうちに、小中一貫が始まってきている状況は、保護者としては目まぐるしく学校生活が変化しているように感じており、子ども達への影響は心配ではある。

説明会も本当は就学前の保護者の方にもっと聞いていただけたらと思った。意見のある保護者はいるので、別の方法で意見を拾える方法を考えて、これから進めていただけたら嬉しい。

(委員)

いち保護者として気になるのは、この先の開校準備委員会で決まる内容ばかりである。そこでいろいろ私達も意見をしていきたいですし、そうしやすいような環境もつくっていただきたいと思います。

また、今後何かあったときに私も意見できるような機会をつくっていただけたらと思う。

(委員)

特徴が具体的で、魅力に感じられたらもう勝ちだと思うので可能な範囲でやってほしいと思う。

(委員)

他のものと同じようなものっていうのではなく、全国にないものつくってほしい。そうでないと吉川はどんどん人が減っていくので、そこを最後の砦じゃないが、人が集まるような起爆剤になってもらいたいと思うので、開校準備委員会の方で検討してもらいたいと思う。

(委員)

開校準備委員会は期間が長くなるので、最初の方の良い意見は最後まで消えないように進めるっていうところと、メンバーがどんどん変わっていくのも変化のある意見が集まりやすいかなと思う。今後も期待している。

(委員)

2年間お世話になりありがとうございました。今は学校でも地域や家庭のつながりが薄くなってきていると言われていたが、小中一貫校にしたときに、地域の方や保護者、子どもたちがみんなであって、楽しく学校生活を送れるような環境づくりを、皆さんでまた盛り上げていけたらと思う。

(委員)

統合の際は大変な2年間だったが、今回は4年間あるのでじっくり丁寧に進めていきたい。子どもが一番なので、やっぱり子どもが過ごしやすいより良い学校にしていきたいと思う。

(委員)

スクールメールで配信しているが、この説明会自体「知らなかった」という方もいると思うし、「小中一貫校になる噂は聞いているが、何がどう話し合われているのか分からない」という保護者の方が多分多くおられると思うので、丁寧に説明をしていただきたい。

また、本当に魅力ある小中一貫校として、市街地から吉川に行きたいと言う人が1人でも増えるような学校をつくっていただくよう、皆さん頑張ってくださいと思う。

う。

(委員)

より高いお手本の中学生の子たちが小学生と交流すると、小学生にとって本当にいいお手本であり、小学校よりももっと高い目標を持つ子も出てくる。そういう意味で、小中一貫校にすると子どもたちが本当に生き生きと活動し、すごくいい効果が現れるのだらうなということを感じ始めている。

今の吉川小学校は4つの小学校が集まっているが、未だに難しい運営をしないといけない施設だと思っている。さらに、今中学校と一生懸命交流はしているが、やはり交流のしにくさというのもある。効果はあるが、なかなかそれが現れるような取組が難しい。今の施設ではなかなかしんどい部分があるので、早く構想が実現できるような小中一貫校建設を進めていただけたらなと感じている。

(委員)

生徒会の方に、「次の子たちにどのような学校を残したいか」という意見を取ってもらった。ぜひそういう意見も今からどんどん聞いてもらって、次の子どもたちのためになるような学校にしてもらいたいなと思っている。

それから、教育委員会には何度も教職員に説明に来ていただき、研修会でも説明に来ていただいて、「子どもたちにとってどのような学校、どんな教室がいいか」ということについて、教職員の意見も十分に反映させたいと言われているので、協力していけたらいいと思っている。

(副会長)

委員のみなさんからは非常に熱意を感じる意見をいただいた。今後は全ての意見は取り入れるのは難しいかもしれないが、できる限り皆さんが納得できる、魅力のある施設一体型小中一貫校を設置してもらいたいと思う。

私もまちづくり協議会の方でみんなの意見をまとめて、それをこちらで出せるよう、意見を交換して進んでいきたいと思っている。

子どもを中心に考えて、吉川町自体が活性化して、また人口がまた昔のように増えていったらいいなということを願いながら、一緒に進んでいきたい。

(会長)

吉川町は合併20年を迎えているが、その中で人口が過疎地域並みに減っている。10年後に、合併してよかったなというような計画にしていだきたいと思う。魅力のある学校をこの吉川地域につくっていただきたいというのは、私の願いでありますし、この協議会の願いだと思う。

(事務局)

今回、委員の皆様には約2年間、多方面からいろんなご意見いただきまして、この度ようやく基本構想(案)というのが無事に完成できた。

ただこれはゴールではなく、スタートではないかなと思っている。私も今までいくつもの先進校を視察してきたなかで、その学校の校長先生や教育委員会の担当者の

方々が口々に言われるのが、「いくら立派な建物であっても、結局勝負しないといけないのは教育の中身だ」ということであった。これから開校準備委員会を発足し、その中でさまざまな議論がされていくと思うが、三木市のモデル校として求められる役割がしっかりと果たせるような充実した議論がされていることを期待している。

(教育長)

1年10か月にわたり、皆様の熱意で支えられ、まさに地域協議会が協働して、この基本構想(案)が完成した。本当に長い間ありがとうございました。一番良かったと思うのは、吉川が目指す児童生徒像を共有できたことである。これからの吉川の子どもはこんな子になるということを感じて、これからの4年間で準備していきたい。

先日の地域説明会は私も少し寂しい気持ちはあった。新聞記事や市のホームページ、保護者の皆さんに届くメール、こども園でのチラシ配付、そして区長協議会にお願いして、チラシを全戸配布したが、それでも届かなかったということであれば、また別のことを考えなければいけないと思っている。

教育委員会ではこれから5年間の教育の振興基本計画をつくろうとしている。それには保護者の皆様や小学校1年生から中3まで全ての子に、今度の基本計画に役立つようなアンケート調査をした。しかし回答は3割程度であった。なかなか興味を持っていだけないのかなと思うのだが、できるだけたくさんの方のご意見を伺うことの難しさは今、身に染みているところである。そのため、今後開校準備委員会を立ち上げるにあたっては、今課題になっていることについて検証しながら進めたい。

学校教育では、子どもたちに主体的、対話的に深い学びを得ることを目指しているが、対話的というのは、子ども同士が会話をするという意味であり、先生は一方的に指導するのではなく、子ども同士が会話できるようなコーディネーターとしての役割が求められている。その対話も、子どもの数によってその質が変わってくる。ある程度の人数がいて、いろんな意見から最適解を見つけることが大事である。子どもが減ってくる中で、小さい小学生から大きいお兄ちゃんお姉ちゃんの中学生の9年間で小中一貫校にすることによって、様々な学びが繋がっていくのではないかなと思う。

また、説明会でもご指摘のあった教師の質の向上については、教育委員会の大きな役割だと思っている。学校での教え方は、指導要領に縛られているわけではなく、工夫次第でいろんな指導ができる。学校だけではなく、地域に手伝っていただきながら、「地域とともにある学校」をつくっていきたい。そのためにこれから開校準備委員会を立ち上げ、そこでより具体的なテーマについてご意見をいただきながら、本当に地域でつくる学校にしたいと思う。今日がそのスタートだと思うので、今後とも是非ご協力を賜りたい。

(副会長)

本日はお忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。

吉川地域における施設一体型小中一貫校設置に係る地域協議会としてこれまで多くの議論を重ねてきたが、この度その成果をもとに、開校準備委員会へと移行する。

開校準備委員会においても、地域の皆様の熱意を惜しみなく発揮していただき、子どもたちにとってより良い教育環境を整え、皆様のご意見や知恵を生かしていける

ように、今後ともに手を携えて進んでいきたいと思う。

それでは第8回吉川地域における施設一体型小中一貫校設置に係る地域協議会を閉会する。改めて委員の皆様、ご参加に感謝申し上げます。ありがとうございました。